

□ 情報提供項目

あまちゃんマラソンの開催平庭闘牛わかば場所など各種イベントを市長からお知らせした。

□ 記者との質疑応答

記者 あまちゃんマラソンについて、「あまちゃん」放送10周年ということだが、これまでと違った内容はあるのか。

市 「あまちゃん」放送10周年記念を冠として開催。コロナの前の状態に戻し、参加者へのお振る舞いや出発式をにぎやかにやっていきたいと考えている。

記者 ハザードマップ説明会を12カ所で開催ということだが、付帯事項や協議、ワークショップなどがあれば教えて欲しい。

市 12カ所、人数制限は設けず、すべて同一の内容を説明で説明する。内容は全戸配布したハザードマップの詳細を説明をする会となっている。

記者 北三陸あまちゃん協議会は、例年開催されているものなのか、10周年に合わせて特別に開催されているものなのか、詳細を知りたい。

市 協議会は以前からあり、総会は毎年開催している。総会の中で市で持っているものを提案させていただき10周年記念イベントやキャンペーンを行うこととなっている。

記者 協議会の構成はどのようになっているのか。

市 広域4市町村のほか田野畑村、県北広域振興局、商工会、観光関係団体などである。

記者 9月の大友さんのコンサートの販売状況はどうなっているのか。

市 連休中、1階席の3分の2、2階席の半分近くは予約が入っている状況であった。

記者 4月からあまちゃんの再放送があり、道の駅のオープンなど話題があつてのゴールデンウィークウィークだったと思うが、入れ込み数など教えて欲しい。

市 いわて北三陸道の駅の入場者数は、3～5日の連休が一番混み合っており、3日間とも1万6千人台となっていた。また、小袖海女センターは前年比151%の伸び、他県ナンバーの車も多く、販売しているウニご飯90食が毎日完売。タクシープランの利用も6割以上の人が小袖海岸を利用するなど、あまちゃん再放送の効果もあると思われる。それ以外の施設、もぐらんぴあ、べっぴんの湯、やませ土風館についても昨年以上の伸びがあり、いわて北三陸道の駅に来ていただいた方が、市内の観光に来ていただいていると感じている。

記者 もぐらんぴあは、道の駅の発着となり、かなり効果が大きかったと思うが去年と比較してどのくらいになるか。

市 5月の3～5日の比較になるが129.6%である。

記者 いわて北三陸道の駅の開業やあまちゃんの再放送など、実際の手ごたえ感など教えていただきたい。

市 広域道の駅いわて北三陸を作ったのは、仙台～八戸間が開通し一旦降りていただかないと、通過地点になりかねないと感じ、管内の町村にも声をかけオープンに至った。立地場所は久慈北インター降りてすぐ、規模も選んでいただくためには大きさも必要であろうと思い整備した。何より、ポケモンイシツブテ公園を作ることができ、かなり話題性もあったと思う。また、あまちゃんの再放送により、まめぶ、琥珀、三陸鉄道、小袖な

ど話題性が重なってきている。オープンから連休までトータルで16万人超える方々に来ていただいているのは、予想をはるかに上回っていた。そういう意味では、施設の整備をそこに向けて取り組んできたこと、話題性、タイミング、天気にも恵まれ、狙い通りとなった。道の駅にたくさん来ていただいているということは、買い物や食事もとっていただいたということである。どの業者に聞いても非常に順調であると、物の供給が大変であったとうれしい悲鳴が聞こえている。この後萎んでしまわないように、季節毎に外を使ったイベントや品ぞろえも工夫していくことにしている。そういった魅力づくりもこれからもさらに力を入れていきたい。道の駅だけではなく、一旦降りていただいて、相乗効果で町中にも足を運んでいただいているようなので、市としては平庭まで誘導するようにしたい。3町村もPRブースにも力を入れている。そういったところも知恵を絞り、いい意味での競争、切磋琢磨していきたいと持っている。また、県内外の議会から視察要請あり、注目を頂いていると感じている。7月には山田町など県内で道の駅を整備するという話がある。いい意味での競争の時代になっていると感じているので、負けないようにしていきたい。道の駅の入場者数は、ランキングの上位に入ると、行ってみようと思える施設にもなる。中身を頑張っていかなければならない。作った甲斐があると思う反面、これからは勝負だと思っている。

記者 津波避難、具体的には車避難についてだが、久慈市の現状の車避難に対する考え方や検討状況や今後の方向性を伺いたい

市 自動車避難については、徒歩ではなく自動車避難を可として欲しいという意見は理解している。ただ、防災計画の中で強い地震や津波警報が発表された場合は、高台や安全な場所に避難してもらうことで、原則徒歩だと記載している。ただ、自動車避難について検討する必要があると思うが、実際に災害が起きた場合、渋滞や道路の損壊で不可能になるリスクもある。立地条件や地域の状況等それぞれ異なることなので、どの程度機能するか不明瞭な部分もあるが、検討を進めて行くが、現時点では厳しいと感じている。

記者 検討も進めるということだが、具体的にどのように検討することか。

市 検討委員会でみなさんから意見や県から意見を頂き検討を進めて行きたいが、現時点でどういったように進めて行くか決まっていない状況である。

県も検討することだが、一律にはできることではないと思っている。市も地域によって道路事情や人口密度など状況が違っている。原則徒歩となっているが、一律に認める認めないということは難しい。今後、各地区の自主防災組織にシュミレーションしてもらい、それぞれ検討してもらい、普段津波が来るといふ人に車を捨ててと強制もできない。道路状況や駐車スペースでも違ってくるので、自分の地区で検討してもらい、地域ごとに状況が違うので、自主防災組織が中心になり、どう動いていくか地域ごとに考えていかなければならない問題だと感じている。東日本大震災では、海沿いの加工工場は、バスで従業員を速やかに動かしたという例もある。それぞれの地域事情を加味しながら進めて行くことになると感じている。普段から想定していくことが大切だと思う。地域の状況に合わせて考えて行動していくことの繰り返したと思う。まず自主防災組織100%を目指していきたい。その人がどのような条件のところに住んでいるか、家族構成などで違ってくると思う。

記者 5月3日に入場しようとしたら、かなりの行列であった。臨時駐車場の看板もできていたのはわかるが、最初の連休だったこともあると思うが、例えば緊急車両もあったら大変だと思った。どのように対応していくのか。右折して入るのはダメだったが、あれはどうだったのか。考え方を教えて欲しい。

市 オープン直後のGW一番混む期間であった。車がたまることのないよう、右折を制限して折り返しの左折として対応したのは、三陸沿岸道路をふさがないように渋滞を緩和したものである。市としてはシャトルバスの運営を行い当面指定管理者などと相談しながら検討していきたい。

記者 道の駅にシャトルバスで行くという感覚はない。例えば駐車場の拡張の考えはないのか。

市 他の機関と協議をしてあのような形になっている。これからの状況を見ながらになるが、1車線の高速道路が渋滞する事態は、避けなければいけなかった。それであのような形になったが、駐車場を広げるという形は今時点は考えていない。恒常的にあのような状態になるのであれば検討していかねばならないが、市だけの問題ではない。

記者 記録的な想定外だと思うが、良い要因はどこにあったと思うか。

市 コロナの緩和や広域の道の駅を市町村で整備し、広域全体で魅力を発信したことやインツブテ公園なども考えられる。県外ナンバーもあり、九州や四国など遠くから全国各地から足を運んでいただいた。屋内には、天候が悪いときに遊ばせる施設が少ないという声もあったが、室内で遊ばせられるということも利点であったと感じている。今後、屋根付きイベント広場も利用していきたい。